

水 稻 新 品 種 「ホ ウ ヨ ク」 に つ い て

岡田正憲・藤井哲史・本村弘美
西山 寿・甲斐俊二郎
(九州農業試験場)

OKADA, M., FUJII, K., MOTOMURA, H., NISHIYAMA, H. and KAI, S.
A New Variety of Paddy Rice Plant, "Hôyoku".

かねて育成配付中の水稲西海62号は昭和36年から福岡、佐賀、熊本各県において奨励品種に採用され、通称名をホウヨクとして普及に移されることになったので、育成の経過ならびに特性の概要をのべて参考にする。なお本品種の育成に直接従事した職員は山川寛、天辰克己(兼務)および筆者等である。

来歴ならびに育成経過

ホウヨクは昭和28年、農林省九州農業試験場で十石を母とし、全勝26号を父として人工交配を行い、その後も同場で系統育種法により育成されたものである。昭和32年度より九系B495の系統番号で指定県に配付して特性検定試験が開始され、さらに33年度から系統適応性の検定が開始された。昭和34年2月以降「西海62号」の系統名で関係県に配付して原種決定試験に供し、地方的適否を確かめた結果その成績良好で、昭和36年4月(F₈)に水稲農林130号に登録されホウヨクと命名された。

特 性 概 要

1. 形態的特性 草状は十石に似て極短稈の穂数型に属する。稈長は十石より僅かに長く、穂数は多く、穂長はやや短い。稈はやや細く止葉が直立して熟色は鮮美、草状は良好である。籾には白の短芒が少しあつて脱粒易(中にちかい)で、粒着の密度は中密、玄米は中形中粒で品質食味ともかなり良好である。

2. 生態的特性 熟期は農林37号とナカセンゴクの間であり、九州北部では中生の粳種である。極短稈であるため倒伏には極めて強く、十石にややまさる。普通の白ハガレ病菌系にはかなり強く、葉及び首イモチ病、モンガレ病などの耐病性は中位である。全般的にみて耐病性は十石にまさっている。イネカラバエにも強く、強稈で草状は直立型である。生産力は肥沃地または多肥栽培で極めて高く、深耕多肥密植栽培や直播栽培にもかなり適応するようである。十石との生産力の差は諸病害の多発地帯で特に著しい。

3. 適地及び奨励品種採用県

昭和34年度以降2ヶ年にわたつて各府県に配付して地域適応性が検討されたが、第1表にみられる通り、その適応性はかなり広いことがうかがわれる。この品種は九州を主体とし、東海・近畿以西の特殊平坦肥沃地帯に最も適し、暖地では一部中山間肥沃地帯にも入りうるものと思われる。また栽培様式としては深耕多肥密植栽培にも適応し、多収穫栽培用としてもかなり期待出来るものと思われる。昭和36年度の奨励品種採用県は福岡、佐賀、熊本県である。

第1表 配付先における成績総括表

年次	配付箇所数	概 評						普 肥		多 肥	
		奨励	概有望	有望	やや有望	再検討	見込なし	取量比100以上	未滿	取量比100以上	未滿
昭33	3			3				3			
34	10		2	2	4	1	1	8	2	2	4
35	28	3	1	7	9	6	2	18	9	5	2

4. 栽培上の注意 極短稈穂数型であるため地力の中位以下の瘠薄地および秋落しなどには不適で、肥沃地および多肥栽培などで能力が充分発揮される。またこの品種は単位面積当たりの穂数確保は比較的容易であるが、平均一穂粒数および粒大の増加にはやや困難があるので、栽培上留意すべきであろう。さらにイモチ病防除を励行するとともに、この種の草型は加里成分の欠乏に敏感であるので配慮すべきである。

5. 命名の由来 豊沃を意味し、肥沃地に適応して生産力も高いことをあらわす。

結 言

本品種は(1)極短稈穂数型で倒伏に極めて強く耐病性に富むこと、(2)多収であり深耕多肥密植栽培にも適すること、(3)熟色がきわだつて美しいこと、等の長所を有している。短所とするところはイモチ病に対してはまだ改良の余地があることである。品質もかなり良く今後は十石、ベニセンゴク、ナカセンゴク、千本旭、金南風等の栽培地帯に普及が見込まれる。